

産後1-6か月で、父親の情緒的絆がうまく作られない要因について

Suzuki et al. Factors associated with new onset of father-to-infant bonding failure from 1 to 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan environment and children's study. Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2023;58(11):1603-1624. doi:

[10.1007/s00127-023-02505-0](https://doi.org/10.1007/s00127-023-02505-0)



【はじめに】

出生後の赤ちゃんに対して「愛おしい」「守ってあげたい」という感情を抱けない状態はボンディング不全と呼ばれ、放置すると育児放棄や幼児虐待に繋がりがねないため、産後のメンタルケアの重要な課題となっています。しかし、これまでの産後のメンタルヘルスに関する研究の多くは母親に焦点を当てたものでした。本研究では、産後1か月から6か月までの父親において、ボンディング不全の発症に関連する要因を明らかにすることを目的としました。

【調査項目】

872名の父親を対象に、産後1か月と6か月の時点で調査を行いました。ボンディング不全の評価には「赤ちゃんに対する気持ち質問票」を使用しました。これは、10項目の質問に0~3の点数で答える質問票で、得点が高いほどボンディング不全の傾向が高くなります。この点数が5点以上の場合をボンディング不全としました。また、ボンディング不全の発症に関連する因子を統計学的に解析しました。



【結果】

産後1か月と6か月における父親のボンディング不全の発症状況

	産後1か月		産後6か月	
ボンディング不全	なし	732人 (83.9%)	なし	683人 (78.3%)
	あり	100人 (16.1%)	改善	100人 (11.5%)
			新たに発症	49人 (5.6%)
			あり (継続)	43人 (4.9%)



産後1か月から産後6か月の間に、約5%の父親で新たにボンディング不全が発症していました。

また、統計学的解析の結果、父親の育児休業取得、早産、父親の産後うつ発症、および母親のボンディング不全発症が、その関連因子となっていました。

【この調査でわかったこと】

産後1ヶ月から6ヶ月までの父親の新たなボンディング不全の発症頻度と、その関連要因が明らかになりました。今後、これらの原因の予防や父親のボンディング不全のさらなる解明に向けた取り組みに有用なデータになると期待されます。